令和8年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【西浦和小学校】

①	今年度の目標と学力向上策
重点的に育成する資質・能力	(1)根拠を明確にしながら、自分の考えを伝えることができる資質・能力 (2)自らの学習を調整することができる資質・能力
⇓	
実施する学力向上策【時期・頻度】	(1)問題の答えを求めるだけではなくて、どのように考え、その答えになったかなどについて、児童が筋道を立てて説明する授業の実施。【各単元の中で1回以上】 (2)課題解決の過程における自分や友達の学びの深まりや疑問に思ったこと、自分の学び方についてを振り返ることができる時間の設定。【単元末】

②	全国学力・学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

③	中間評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
学力向上策の見直し		

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

④	さいたま市学習状況調査結果の分析
特徴的な結果	
⇓	
結果から考えられる児童生徒の実態	

⑤	年度末評価	
学力向上策の実施状況	評価(※)	
⇓		
今年度の成果と次年度の課題		

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

令和7年度版「学力向上ポートフォリオ（学校版）」【西浦和小学校】

⑥	次年度への課題と学力向上策
知識・技能	国語では、全国学力・学習状況調査・さいたま市学習状況調査のどちらにおいても、主語と述語の関係を捉える問題において課題が見られたため。「言葉の特徴や使い方に関する事項」への取組を全学年で重点的に行い、当該学年で身に付けるべきことを明らかに示し、指導していく。 算数では、基礎的・基本的な知識・技能の定着のため、四則計算の方法を振り返るとともに、授業時間内に適用問題を実施していく。その際、ドリルパーク等を活用し、個人の実態に応じて問題に取り組めるようにする。
思考・判断・表現	主体的に学ぶ児童が少しずつ増えてきたことをふまえ、引き続き課題設定等の工夫をするとともに、根拠を明らかにして情報を読み取る活動を重視し、授業を展開する。また、ICTを活用して児童がいろいろな考え方にふれ、仲間と協力して多様な考え方について語る場面を積極的に取り入れた授業を展開する。

①	今年度の課題と学力向上策		
	学習上・指導上の課題		学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」 算数「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。個に応じた指導を充実する必要がある。反復や振り返りの時間が十分に確保できていない。	⇒	授業の最初に前時の学習を振り返り、その内容を生かして本時の課題を設定する。【毎時間】 書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサプリの活用、学習スペースの利活用を通して、一人ひとりが課題に合った学習を進めていくための指導・支援を行う。【週に一度】 1人1台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃ・ク」を意識した児童主体の授業を行い、成果と課題を確認する。【1か月に1度】
思考・判断・表現	<学習上の課題> 国語「言葉の特徴や使い方に関する事項」「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」 算数「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」 <指導上の課題> 個人差が大きい。児童が自己表現する時間を授業中に確保することが必要である。	⇒	話を確実に聞くことを主眼に置いて指導を行う。また評価規準を児童に示すことで、児童主体の振り返りを充実させる【毎時間】。 ICTを効果的に活用し、児童の「わかった・できた・楽しい」を引き出す。また、魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもって自力解決する場面の設定を行う【毎時間】。

⑤	評価（※）	学力向上策の実施状況
知識・技能	B	書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサプリの活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習に取り組ませることができた。 一人一台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した児童の主体的な学びのある授業を行い、成果と課題を共有することができた。
思考・判断・表現	B	話を聞くことに主眼を置いた指導することができた。評価規準を児童に示すことは概ねできているが、学校全体での実施には引き続き課題がある。また児童主体の振り返りについては改善しつつある。 ICTを効果的に活用した授業実践はできている。また児童を引きつける魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもって自力解決する場面を設定する授業が増えている。来年度以降も引き続き校内研修に位置づけていく。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）

②	全国学力・学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	国語では、言葉の特徴や使い方に関する問題において課題がみられた。解答類型を見てみると、推敲前後の文章の違いを正しく読み取ることができていない児童が多く、文章を読み取る力が不十分であると考えられる。 算数では、場面の数量の関係を捉え、式に表す問題において大きな課題がみられた。問題文が長くなるほど正答率が低くなる傾向がみられることから、読書の量と質を向上させていことが課題となる。 R7全国学力・学習状況調査の児童質問「課題の解決に向け、自分で考え、自分から取り組んでいるか」や「自分に合った教え方、教材、学習時間であったか」に対する肯定的な回答の割合がとても大きい。今後も児童主体の個別最適な学びを進めることができるよう、研修を積んでいく。
思考・判断・表現	国語の「書くことで」では、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わる書き表し方を工夫することにおいて課題が見られた。 算数では、「数と計算」「データの活用」の領域において課題にみられた。示された情報を基に、必要な数値を読み取って式に表す力が不十分であると考えられる。また、学んだことを次の学習にいかしたり、実生活に結び付けたりすることにも課題がある。 R7全国学力・学習状況調査の児童質問「自分の考えがうまく伝わるように資料や文章、話の組み立てを工夫している」や「次の学習や実生活に結び付けている」に対する肯定的な回答の割合は高い傾向にある。これまでの手立てを引き続き実践するとともに、ICTを活用した振り返りを行い、次の学習に生かしていく。

④	さいたま市学習状況調査結果について（分析・考察）
知識・技能	国語では、主語と述語の関係を捉える問題に課題が見られる。文章を構成する語句が増えると内容を正しく理解できなくなってしまう傾向がある。今後は文中の語句を役割ごとに分けながら理解を深めていく活動を取り入れたり、類似問題や過去問題に取り組んだりすることで学びの質を高めていきたい。 算数では小数の除法や四則混合の計算において課題が見られた。今後は、加減法や乗除法といった基礎を確認しながら、プリントやドリルパーク等を活用しての反復学習に取り組んでいきたい。
思考・判断・表現	国語の「目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けて読むことができる」、「自分の考えが伝わるように、適切な図表を用いて書き表し方を工夫することができる」に課題がみられる。説明文や相手の話の中心を捉える力を育成する学習が必要である。 算数の「グラフを読み取る問題」、「図形の定義、性質についての問題」に課題が見られた。グラフから必要な情報を読み取る力、図形の定義について再確認する必要がある。

③	中間期報告		中間期見直し
	評価（※）	学力向上策の実施状況	学力向上策【実施時期・頻度】
知識・技能	B	学習内容を振り返り、それを生かして本時の課題を設定する流れは共通理解しているが、実践において課題がある。 書き込み式ドリルやドリルパーク、スタディサプリの活用を通して、一人ひとりの課題に合った学習に取り組ませることができている。 一人一台端末を活用し、学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した児童主体の授業を行い、成果と課題を共有することができている。	文章を読み取る力を向上させるために、読書活動の充実を図る【秋の読書月間の実施】。
思考・判断・表現	B	話を確実に聞くことに主眼を置いて指導することができている。評価規準を児童に示すことは概ねできているが、学校全体での実施には課題がある。また児童主体の振り返りは不十分である。 ICTを効果的に活用しての授業実践はできているが、魅力ある導入や必要感のある課題設定、解決の見通しをもって自力解決する場面を設定する取組はまだ不十分である。今後研修に取り組んでいく。	左記の手立てを実践するとともに「次の学習につなげる」「実生活につなげる」指導を行っていく【毎時間】。

※評価　A 8割以上（達成）B 6割以上（おおむね達成）C 6割未満（あと一歩）